



お盆が過ぎ、季節はあっという間に秋がやってきます。が！

まだまだ暑さは続きます。熱中症のリスクもまだまだ高いです。コロナの感染者も多いです。

自己管理を怠ることなく時期や世間状況に合わせた予防対策を続けましょう。

## ★社内連絡★

### ①7月の入社者は2名・退職者は4名でした。

新規採用者で夏の作業に慣れておらず体力的にリタイヤされる方が見受けられました。日々の生活で汗をかく機会があまりない方には続けにくい職種なのかもしれません。

長年勤めていただいている方の多くは「フィットネスの代わりやと思って頑張ってる!」「汗かくことは嫌いじゃないから!」とおっしゃって、いつもハツラツとされている印象があり清々しい気持ちになります。日ごろの鍛錬の賜物ですね!

とはいえ、人には向き不向きがありますので「身体を動かす仕事は好きじゃない」「汗をかきたくない」「暑さや寒さに耐えられない」方は無理せずご相談くださいね。



### ②急遽お休みしなくてはいけなくなった場合について

コロナウイルスの感染やご家族の急病など事由は様々ですが、7月より急遽休務される方が爆発的に増えています。そんな時、



**ショートメールやラインでの欠勤・休務の連絡はおやめください**

急を要する状況ですのでメールでの連絡は非常にリスクが高いためです。必ず電話にて伝えるように努めてください。

緊急連絡網記載の電話番号どこにかけていただいてもかまいません。

※注意※ 事務所携帯は平日9:00~17:00しか電源が入りません

お盆も終わり、少しは暑さが緩和されるとよいのですが、昔から言われているような涼しさはあまり期待できませんね。先日奈良の燈花会に行ってきました。うだるような暑さとごった返す人々で、「こりゃあ、コロナも熱中症も無くならないわ・・・」と参加しながら感じました。

お盆の間は仏壇や・お墓に手を合わせる機会が多いですが、何故お線香を焚くのかご存じでしょうか?お線香を焚くことにより、その場や自分自身を清められるといわれています。

お線香には香りがあり、香りが辺りに広がることにより、その人の持つ香りが消えるともいわれています(俗世に染まった心身を清める)。また、仏教では故人は香りを食べるという考えがあり、お線香の煙やご飯やお茶の湯気を召し上がっておられるようです。立ち上がる煙によってあの世とこの世を橋渡しする役割を担ってくれていると思えば、またお線香に火を灯す気持ちも変わってくるのではないのでしょうか。

ちなみにお線香の火を人の口で吹き消すことは大変無礼な事だといわれています。人間の口から出る息は穢れ(けがれ)とされ清浄なものにかかることは古くから忌避されていたようです。人に向かって息を吹きかけたり、人が食べるものに他者が息を吹きかけたりしたら嫌だと感じる事と同じ事なので、火を消す時はお線香を持ち、縦に振るか、手で仰ぐようにしましょう。

以上お盆にまつわる豆知識でした。

体調を崩す方が続出しています。各人くれぐれもご自愛ください。

代表取締役 天野祐子 でした



## Q. 突然ですが、問題です

👉 この人は誰でしょうか？

1820年5月12日イタリアフィレンツェにて生まれ 1910年享年90歳にて死亡  
イギリス人の看護師で看護師の仕事の基礎を作り医療制度や医療施設を改革した人物  
「白衣の天使」と呼ばれる

19世紀当時、看護師は卑しい仕事と思われていた職業だったそうです  
粗末で汚れた服を着て シーツはドロドロのまま  
不潔でだらしく 飲酒看護師なんてざらにいる始末  
病に伏した入院患者は「どうせ死ぬ」と粗末に扱われる状況だったそうです  
なんとその時の院内の死亡率 42%  
この方の得意だった数学・統計学を以って医療体制・施設の改革を施され  
その死亡率は2%にまで減少させてみせたそうです



正解は **フローレンス・ナイチンゲール**

改革のために彼女がまず目をつけたもの

それは、**清掃・洗濯の徹底**だったそうです 衛生環境を整えることでした  
みなさんも衛生環境という言葉聞いたことがあるかと思います

衛生環境とは「生」を「まもる」ことから健康をまもること、転じて健康の増進を意味する。特に清潔を保つことを意味する場合も多い。 Wikipedia 参照

～ そんなナイチンゲールの遺した名言を一つ ～

天使とは、花をまきちらしながら歩く者ではなく、人を健康へと導くために、人が忌み嫌う

仕事を、感謝されることなくやりこなす者である。(Sir Edward Cook、中村妙子・友枝久美子訳:ナイチンゲールそ

の生涯と思想 第2巻 p.376、時空出版、1993)

清掃・洗濯などによる清潔を保つことは生命を守ることに繋がるのです  
コロナ禍で継続し続けている我々の仕事にどれほどの役割があるのか 誇りに思います